

授業概要

私たちは社会という場や関係を生きているが、必ずしもその実態を把握しているわけではない。時には根拠のないイメージや思いこみ、また流布された虚像などを事実と取り違えてしまっていることもよく散見する。自らが生きる場や関係が、実態としてどうなっているのか、それを確認するために有効なのが社会調査である。社会調査とは関係構造としての社会を明らかにすることが第一義だが、それに終始するばかりではない。自らの問題意識に根ざした調査は、調査する側の認識を新たにし、一人ひとりが生きる現実を拓いていく可能性を秘めた創造的な営みでもある。本講義では以上を主なテーマとして社会調査の概略を学習する。

授業計画

| | |
|--------|---------------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス |
| 第 2 回 | 社会調査とは何か |
| 第 3 回 | 社会調査の実例（歴史と現状） |
| 第 4 回 | 何を明らかにしたいのか—目的と方法 |
| 第 5 回 | 基礎資料の収集 |
| 第 6 回 | 調査の設計 1—テーマと変数(独立変数、従属変数) |
| 第 7 回 | 調査の設計 2—仮説の立て方 |
| 第 8 回 | 調査票の作成とサンプリング |
| 第 9 回 | 実地調査のために—現地との連携、ラポール |
| 第 10 回 | 分析と報告 |
| 第 11 回 | 量的調査の限界と質的調査の意義 |
| 第 12 回 | フィールドワーク |
| 第 13 回 | 聞き取り調査、参与・非参与観察 |
| 第 14 回 | 調査結果の取りまとめ |
| 第 15 回 | 社会調査という権力—社会調査倫理綱領 |
| 第 16 回 | 調査プランの提出 |

到達目標

- ・今現在の社会でどのような問題が起こっているのかに興味関心を持つことができる
- ・それらの問題に対する自分の疑問や問題点を具体的に文章化できる
- ・それらの問題点を質問項目として纏め、他者と共有できる(「コミュニケーションスキル」の獲得)

履修上の注意

この科目は社会調査の基礎を重点的に扱うため、実際の社会調査をするためには他の関連科目を受講する必要がある。また、毎回の講義は必要最低限の知識を凝集しており、それを自分なりに主体的に展開しておくことが求められる。講義内容を消極的に「受ける」のではなく、積極的に「考える」ことを求める。

なお、毎回の講義後に提出するリアクション・ペーパーは、内容が伴っていない場合採点対象外とする。

予習・復習

発展課題において、こちらが指定する事件報道等にアクセスし、出典明示の上で事件の概略を纏め、それについての自身の見解を根拠に基づいてまとめることを課す。特に、調査結果報道には優先して目を通しておくこと。思い込みによる単なる感想は評価対象外とする。

評価方法

調査プラン作成(レポート点として読み替え)60%、平常点(毎回のリアクション・ペーパー、及び発展課題)40%。リアクション・ペーパーは内容によって平常点に加算。出席点はつけないので、講義内容に関係ない内容を記してもカウントしない。RP未提出が講義日程の1/3以上で単位取得不可。遅刻3回で欠席1回と換算。

テキスト

教科書は指定しないが、事前に配布する各回毎の「講義資料」(PPファイル形式)をプリントアウトして持参することを求める。持参しなかった場合は受講の意思がないものとして講義の出席を認めない。